

2026 年  
2月号  
109号

# 念慶寺だより

固定電話は住職の携帯  
電話に転送されます

〒529-0341 長浜市湖北町速水 921 番地 【0749-78-0312】

恩は返すものではない。無駄にしないこと



冬を彩るコハクチョウ

総お取り越し・総会

2月11日(祝・水)午前10時より

## 自分の言葉で語ること

岩手県の碧祥寺住職で、特別養護老人ホームなどの福祉施設の理事長を務める太田宣承さんから施設で発行している広報誌を毎号「ZIN」で送ってもらっています。この紙面の特徴は利用者やスタッフ、あるいは原稿を寄稿される方のすべてが「自分の言葉で語っている」ということです。教えられることも多く、とても温かい気持ちになります。

この紙面に昨年来、私の学生時代からの友人、竹原了珠が連載しています。竹原は能登教区の教務所長も務めており、地震の発災から現在に至るまで、政府や行政との交渉やボランティアの受け入れ調整、各地から寄せられる要望や苦情を最前線で受け止めています。

そんな竹原が、この一年をどのように迎えるのかを語っています。その契機は伊勢湾台風の被害を受けた方の言葉によって開かれました。六十年を経過してなお「自分たちの苦しみはそんなものではない」と語られる、言葉の重さ。苦しみは過去の出来事として終わらず、その人自身であり続け、犠牲者と結びついて、今も生きている。

これは能登がこれから直面する問題でもある。しかし、いつか、自分の苦しみをきちんと成仏させてあげねばならないと。【竹原の記事は、3頁に転載】

## 速水22日講の仏花



江戸時代から4度の火災により焼失した東本願寺を再建しようと全国のご門徒が駆けつけて奉仕作業が行われました。その中でも旧伊香・浅井・坂田の三郡は傑出した力を注ぎ、その功績を称えて、三郡に2幅の御影（絵像）が贈られました。湖北の地域は、御影を巡回させてお勤め・法話を行う22日講を行っています。

速水22日講は陣の森会館を会場に毎年1月29日に行われます。今年は私、念慶寺住職が勤行・法話の年。仏花も仕立ててお飾りさせていただきました。

仏花は早咲きの桜を真に、マングローブの流木を控枝にしています。またサザンカで彩りを加えています。

たため、少数の方々にお集まりいただき、しばしの語り合いの時間も持ちました。

## 修正会・新年互礼会【1月1日】

正月元旦、皆様と勤めた正信偈から1年が始まりました。柴辻嘉平さんが米寿、杉田明子さんが古希を迎えられ、お祝いをいただきました。

法話は「本当のものは何か」。大晦日に突く除夜の鐘も昔からあったのかと言えば、そうではなく、昭和に入ってからNHKが「ゆく年くる年」で作り出して全国に定着したものでした。ネットで誹謗中傷が渦巻く事件も、事実無根なことが多い。その中であって、本当のものは何か。我を失っていた友人が娘に語りかけた「名前を呼ぶ」ということを紹介しました。

## 鏡開き【1月2日】

杉田信男さんご家族から修正会にお備えする「御鏡」を寄進いただきました。例年のとおり翌2日には役員・年番の皆さんにお集まりいただき、鏡開きを行い、切り分けたお餅は各ご家庭に配布していただきました。

毎年このようなかたちで実施してきましたが、年番のお仕事の見直し、極力配り物をなくしていくことから、御鏡の配布は今年が最後となります。



## 前坊守の一時帰宅【1月4日】

施設に入所している前坊守の速水鈴子が一時帰宅しました。時間としては1時間に満たない短いものだったが、

元気に過ごしている姿を見せられました。急なことであ



念慶寺ホームページ

念慶寺

検索

念慶寺のフェイスブックページ、速水馨のインスタ・ブログもあります。

住職携帯 090-8536-8533

メール [kkhayami02@gmail.com](mailto:kkhayami02@gmail.com)



HPのQRコード